

取組目標と方策についての成果と課題 ()内令和4年度実績

(1) 教育活動の目標と方策

<学習指導>

目標① 課題解決力育成プログラムを構築する

- ア あらゆる場で、知識の定着と同時に課題解決力育成を意識した取組を強める。
- イ 3年生の課題研究の授業をとおして課題解決への道筋を体験させ、成果発表会を開催する。
- ウ オンライン学習等を全教科で取り組み、学びを定着させる教材開発の推進を図る。

目標② 学ぶ意欲を引き出し、夢を育てる

- ア 資格取得等の目標を設定するなど、生徒が自らの学びを企画・実践することをおして、「学び方」を「学ぶ」教育を確立する。
- イ 生徒の実態に合わせ予習復習や自宅学習の課題の指示、小テストの実施などきめ細かな指導を実施するとともに、ICT機器の活用などをおして、生徒の自宅学習、学習習慣の定着を図る。
- ウ 「分かる」だけでなく「何ができるようになるか」を目標とした、学ぶ意欲を引き出し、高い学力を組織的・計画的に育成する授業を工夫し実践する。
- エ 分かりやすく工夫した授業実践のため、相互授業見学、指導教諭の実践活用等に取り組む。

目標③ 専門性を育み、得意技を身に付けさせる

- ア 国語、英語の資格や検定取得に向け、生徒の取組を積極的に支援する。
- イ 各分野での専門教育内容を整理し、技能スタンダードの内容を含め取り組む資格・検定等への計画を明確化し実践する。
- ウ 高大連携を推進し、後期中等教育と高等教育とのつながりを深めた教育を計画・実践する。
- エ 大学・産学連携を進めるとともに、産業科として、分野連絡会等の分野間の連携により、ものづくりから流通まで総合的に学習する機会を構築する。
- オ グローバル人材育成のため、英語の基礎力の定着と使える英語の習得に取り組むとともに、日本の伝統文化を積極的に学習させる。

目標④ 考えつづける力を育成する

- ア 書かせる場を工夫・設定し、自分の考えを文章化できる指導に取り組む。
- イ 読書教育を強化し卒業後も「読み・考え続ける」生徒の育成に向け動機付けの場を設定する。
- ウ 全校的に言語活動の充実、特にコミュニケーション能力を育成する。課題解決力、プレゼン力等を育成する。(アクティブラーニング型の授業作りを推進する)
- エ 知的財産教育を推進し、創造性やアイデアを大切に教育に取り組む。
- オ 実学としての専門性教育と、抽象的な広がり学ぶ一般教養教育とを両立させる。

目標⑤ 教科会の活性化を図り、「学カスタンダード」を活用し学力を確実に定着させる

- ア 学カスタンダードの趣旨を理解するとともに、校内・各教科で研修を実施し共通理解を深める。
- イ 具体的学習目標を明示し、教科内での統一的指導と評価を実施する。

目標⑥ 社会貢献、地域連携、産業科としての特色化への取組を教育課程上でも工夫する

- ア 産業科として、分野間が連携した魅力ある科目を設定する。
- イ 地域の産業界等と連携し、ものづくりから流通まで総合的に考えられる人材の育成を図る。
- ウ 地域の行事やインターンシップに積極的に参加させ、地域連携を維持発展させる。

【成果】

3年生の課題研究の授業をはじめ、他の教科・科目や授業以外の場面でも生徒が主体的に取り組む、自ら考えて行動する活動を設けた。また、その中でICT機器を効果的に活用することで生徒の意欲や理解をより深める事ができた。

個別の課題やICT機器の活用等により、生徒の自宅学習（1時間以上）の割合が87.6%（昨年度14%）に上昇した。

基本情報技術者8名（昨年度5名）、ITパスポート17名（昨年度21名）、日商簿記2級5名（昨年度12名）、全商1級3冠以上17名（昨年度10名）と多くの生徒が資格取得で優秀な成績を残した。

校内での協議・調整を経て、産業科の学校設定科目「産業経営I」を開発することができた。各種団体と積極的に連携し、より実践的な内容を学ぶとともに、「学んだこと」を活かす場を提供することができた。

【課題】

ICT機器の活用やオンライン授業の効果的な活用方法の研究を組織的・計画的に実施し、授業力を向上させる。

「産業経営Ⅰ」を本校の特色として明確に位置づけ、全教員の協力体制のもと、分野横断的な協働学習による、生徒の課題解決力とコミュニケーション力の育成を実現する。

<生活指導・学級経営等>

目標⑦ 社会と共に生きる生徒を育てる

ア 「ルール遵守の態度」「基本的な生活習慣」を確立させ、充実した高校生活の土台を固める。

イ 「生活指導指針」及び本校の生活指導に係る規定に基づき指導の統一を図り、教職員全員で毅然とした規律指導を実践する。特に、服装・時間厳守等生活規律確立のため、あらゆる教育活動を通じた指導を徹底する。

ウ 規範やTPOに応じたマナーを確実に身に付け、社会において即戦力として役立つ人間を育成する観点から厳格な生活指導を行うとともに、適切な挨拶と相手に応じたコミュニケーション力を養う。SNS等利用に関するマナーやルールを厳守させる指導を徹底する。

エ 統制的な躰指導だけではなく、自立を助ける活動を取り入れ生徒の自律的な態度を育む。

オ 生徒は教師をよく見ている。生徒に厳しさを求める以上、教師も自らを律し「率先垂範」「教師には生徒以上に厳しさを求める」姿勢を貫き、生徒との信頼関係を強める。さらに、体罰・不適切な指導等の服務上の課題とは無縁な教育を行う。

カ 部活動・委員会活動を発展させ、社会地域と連携し、活力ある学校づくりを推進する。

キ 地域・関係機関と連携した防災教育の実施計画を策定し、自助・共助の精神を養う。

ク 学校いじめ対策委員会を中心に学校を挙げいじめ防止・早期発見・相談体制整備に取り組む。

【成果】

「生活指導指針」等を柔軟に運用し生徒の実態等に合わせた指導とすることで、生徒が自主的にマナーやルールを厳守しようとする態度を育成することができた。

コロナ感染症の感染予防を施しつつ、部活動をはじめ様々な教育活動で地域連携事業を実施し、生徒の地域への愛着心を育むことができた。

【課題】

生徒指導の内容について教員間での共通認識が図られておらず、学校全体の指導とすることができない場面があった。

HRや講話等を活用しSNSの適切な利活用について指導を重ねたが、生徒間のトラブルに繋がる案件をゼロにすることはできなかった。

防災計画はあるが、教職員への周知が不十分である。次年度は専門家の派遣も含め、防災体制をより充実させる。

<進路指導・学級経営等>

目標⑧ 夢を育て、進路希望を実現させる

ア 入学から卒業までのロードマップ及び3年間を見通した進路指導計画を進路指導部が作成し、統一性のある進路指導を推進する。

イ ケース会議の実施等、進路指導部と学年・分野との綿密な連携体制を維持発展させる。

ウ キャリアデザインⅠ・Ⅱを中心に、高大連携・産学連携・地域連携・外部人材活用を推進する。

エ 最新の進路関連情報を提供し、オープンで迅速に対応する体制を確立する。

オ インターンシップなど地域社会との連携を工夫し、現実の社会から学ぶ計画を企画実施する。

目標⑨ 生徒理解・保護者理解の一層の深化に努める

ア 各学年とも定期的に個人面談及び保護者との面談を実施し、生徒理解を深める。

イ 教職員の生徒への理解をさらに深めるための拡大学年会等を計画的に実施する。

ウ 教科や分野での資格・検定等への取組計画を保護者・生徒に説明周知する。

エ 3年間を計画的に見通した保護者会・クラス懇談等を実施し、保護者との綿密な連携を図る。

オ ホームページ等を活用し、学校からの情報が確実に保護者に伝わる方策を講ずる。

【成果】

進路指導部と担任の連携により、進路決定率 95.9（昨年度96%）を実現することができた。

インターンシップ等を通じて、生徒の職業に対する興味や理解を深める事ができた。また、地域の企業や団体等との連携がさらに深まった。

保護者や生徒との連絡方法として、一斉メール等を積極的に活用することで、必要な情報を迅速かつ確実に提供することができた。

【課題】

進路指導部主導による指導体制をより充実させ、組織的に生徒の希望進路の実現を図る。

特別な支援が必要な生徒への対応をより充実させるため、校内研修等を活用し教職員の理解促進やスキルアップを図る。

<保健・美化>

目標⑩ 健康で清潔な学校生活環境を保障する

- ア 日常の清掃指導と定期的な全校一斉清掃を徹底し、校内(特に共用部分)を清潔に保つ。
- イ 委員会活動などをおして生徒の環境への意識向上を図り、環境教育を推進する。
- ウ 講習会・講演会等を実施するとともに、きめ細かな健康管理と保健衛生指導に取り組む。
- エ 特別支援教育に関する委員会を中心に実態把握を図るとともに、課題に速やかに対応する。
- オ スクールカウンセラーとの連携を強化し、SOSの出し方に関する教育を推進するとともに、生徒の健全育成を図る。

【成果】

委員会活動を中心とし、全教職員で清掃活動に取り組んだ。生徒へのアンケートでは、86.0(昨年度86)%の生徒が「清掃活動に取り組んでいる」と回答しており、校内美化に関する生徒の意識を高める事ができた。

特別な支援や対応が必要な生徒の情報を教員間で共有することにより、学校全体で生徒を支援するという意識がさらに強まった。また、専門機関との連携もスムーズに実施することができている。

【課題】

物品の整理がされていない特別教室がある。学習環境の確保のため早急に対応する必要がある。

特別な支援が必要な生徒への対応をより充実させるため、LGBT、うつ、等に関する校内研修等を活用し教職員の理解促進やスキルアップを図る。

<図書・視聴覚・ICT教育>

目標⑪ 読書指導・ICT教育を推進する

- ア 図書館利用促進、朝読書、ビブリオバトルへの取組等により、読書に親しむ態度を育成する。
- イ 教育用ICT機器・PC教室・CALL教室のICT機器の利用を促進し、ICT教育機器を積極的に活用することで、生徒の学力の向上に取り組む。視聴覚教材やデジタルコンテンツの開発・蓄積・共有を図り、一人1台端末の有効活用に向けた環境をさらに整備する。

【成果】

例年実施していた朝読書を廃止し、学校図書館で読書をする「読書の時間」取り入れたことで、図書館の活用が促進され、本の貸し出し件数が2959冊(2504冊)増加した。

多くの教員がデジタルコンテンツを活用し、生徒の興味・関心をさらに引き出す授業に取り組むことができた。

【課題】

開発・蓄積したデジタルコンテンツの教育的な効果等について十分に検証することができなかった。

<特別活動・その他>

目標⑫ 集団での学びを体験させ社会性を育成する

- ア 学校行事・部活動を自主的に運営させ、集団活動をおして社会性やリーダーシップを育む。
- イ 積極的に大会等に参加させ、生徒のスポーツ活動や部活動の充実を図る。
- ウ 教育活動全体をおして生徒の体力向上を図り、知徳体のバランスのとれた人材を育成する。
- エ 生徒会活動や部活動、行事などをおして分野を横断した豊かな人間関係の場を提供する。
- オ 主権者教育を適切に実践し、主権者意識の醸成を図る。

目標⑬ 世の中の役に立ち、地域に貢献する

- ア ボランティア活動「奉仕」「人間と社会」の活動計画を工夫し、オリンピック・パラリンピック教育で身に付いた、「ボランティアマインド」、「障害者理解」、「豊かな国際感覚」等の資質・能力を実際に活用させ、これらの資質・能力の定着を図る。

イ 地域社会との強い結びつきを維持発展させ、連携事業を実施する。
(いちよう祭り、八王子市、千人町三四丁目町会、第五小学校、横山中など)

【成果】

コロナ過からの活動制限が解除される中、都大会や全国大会で、複数の部活動が優秀な成績を残すことができた。八王子ビートレインズの集客支援活動では、イーアス高尾やエスフォルタアリーナの学校ブースに多くの来客があり、好評を博した。

これまでの地域連携活動を維持しつつ、新たな地域連携活動を実施することができた。

【課題】

主権者教育は、教科・科目では指導内容を充実させる事ができたが、特別活動としては十分に取り組むことができなかった。

<学校運営関連>

目標⑭ 目標共有・協働意欲・対話を軸とした組織的學校運営を實踐する

- ア 教育活動・進路指導などの成果を記録化し、ノウハウ等を学校全体で共有できる体制を作る。
- イ 学校評価、授業評価などのアンケートを活かし、成果と課題・新たな目標を明確化し、協働意欲をもって改善しつづける組織となる。
- ウ 経営参画ガイドラインに基づき、経営企画室の積極的な経営参画を推進する。
- エ 入学した生徒の学習状況等の検証・検討に基づき、入学者選抜の課題を把握し、適切な改善と準備を行い、的確な入学者選抜業務を実施する。
- オ 業務の効率化を徹底し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。
- カ 執務環境の整理整頓、クリーンデスクに取り組み、日頃から個人情報保護を徹底するとともに、ミスを事故にしない組織的な業務運営を行い、服務事故を未然に防止する。

目標⑮ 開かれた学校をつくる

- ア ホームページの適宜更新や、学校案内等広報媒体の改善により、効果的に情報を提供する。
- イ 卒業制作展などを実施し、本校の教育活動の成果を地域に広く還元する。
- ウ 中学生対象の体験教室、学校公開、学校見学・説明会、出前授業等を全校体制で実施する。
- エ 小・中学校や地域等と連携し、本校への潜在的入学希望者を確保する活動を展開する。

目標⑯ 教育活動を補完する効率的な施設利用

- ア 限りある教育施設を適切に維持管理し、学校として有効で効率的な利用を工夫する。
- イ 作品展示コーナーを拡充するなど、学校施設や設備等の利用を工夫する。

目標⑰ 地域・保護者と共に生きる学校をつくる

- ア パートナースhip協議会との連携を強化し教育活動の改善に取り組む。
- イ PTA活動と連携し保護者の信頼を獲得し、学校・保護者・地域の三者で育てる環境をつくる。
- ウ 本校の特徴を活かした公開講座の実施や学校開放事業に取り組む。
- エ 学校行事や保護者会の開催方法等を見直し、保護者等が参加しやすい状況を工夫する。

【成果】

本校の魅力や取組を広く発信することで、学校説明会や学校見学会に多くの中学生を集める事ができた。

ペーパーレス会議を完全実施し、資源と時間の節約を実現することができた。

【課題】

本校の魅力さをさらに発信するために、中学校の教員向けの説明会等を実施したい。

ペーパーレス以外の業務効率化の可能性について、教職員がアイデアを出し合えるような環境を整えていくことが必要である。

(2) 今年度の重点目標と方策(含む数値目標)

※ 今年度の最重要課題は次の4点

- 1 産業科としてのより一層の基盤確立
- 2 学力・スキル・体力・規範意識向上
- 3 資格取得と進路実現
- 4 募集対策活動の更なる充実

① 学校組織目標達成と活性化への取組

- ア パートナースhip協議会を年3回以上、協議委員による授業見学を実施し、組織目標達成に向けた取組を公開する。

→協議会を年3回、そのうち1回は授業見学を併せて実施

- イ 課題解決に向け、校内研修会を各学期3回以上実施する。

→1学期4回【サービス事故防止①②・募集対策・教育相談】、2学期3回【特別支援教育・安全教育・サービス事故防止③】

② 学習活動活性化への取組

ア 教科の目標を明確に設定し、到達度テストや学力分析会を実施することで、組織的・計画的な学力向上と授業改善に取り組む。

→学期ごとに実力診断テスト、分析会を実施

イ 年2回以上、教員の相互授業見学を計画的に実施するなどOJTを推進し、授業力向上を図る。

→1・2学期ともに授業見学期間を設定し実施

ウ 学校評価アンケートでの授業理解度「理解できる」の肯定的回答85%以上を目指す。

→生徒による授業評価アンケートの肯定的回答 1学期:90.0(89)% 2学期:90.0(90)%

エ 適切な課題を生徒に継続的に与えるなどの具体的方策を実施して、1学年、2学年生徒に毎日1時間以上の家庭学習(オンラインを活用した課題の配信含む。)を実施させる。(課題制作・授業時間外の校内その他での学習を含む。)

→1時間以上家庭学習を実施している生徒の割合:87.6(85.7)%

③ 進路希望実現への取組

ア 各学年とも年3回の面談、内1回は保護者面談または三者面談を実施する。

→全学年実施済み 保護者面談・三者面談は主に長期休業中に実施

イ 現役進路決定率95%以上を目指す。

→97.4(96.9)%

ウ 進路指導満足度85%以上を目指す。

→肯定的回答 91.9(96.2)%

④ 生活指導・特別活動への取組

ア 遅刻生徒への指導体制を工夫し、遅刻年間10回以上の生徒10%以下を目指す。

→29.1% (1年 14.6% 2年 26.3% 3年 47.2%)

イ 年間皆勤者35%以上を目指す。

→17.9% (1年 24.5% 2年 19.5% 3年 9.0%)

ウ 桑高祭への来場総数3000名以上、保護者来校者(家族も含む)数1000名以上を目指す。

→一般公開2487名 保護者:1102名

エ 他者と協力して自立的に行動する能力や社会性を養う等の部活動の教育的意義を生徒に周知し、部活動加入率85%以上を目指す。

→加入率 77.5(80)%

オ 服装頭髪等で指導を受けた生徒の改善率100%を目指す。

→改善率 99.8(100)%

⑤ 保健・美化・食育健康教育への取組

ア 学校評価アンケートでの校内美化に対する肯定的回答80%以上を目指す。

→肯定的回答 88.4(86.7)%

イ 食育活動に取り組み、朝食取得率85%を目指す。

→取得率 89.0(86.9)%

⑥ 学校改善と本校ブランド確立への取組

ア 学校評価アンケートでの学校満足度「学校生活は楽しい」の肯定的回答90%以上を目指す。

→肯定的回答 96.1(93.0)%

イ 保護者会等の開催を工夫し、保護者の参加率50%以上を目指す。

→1学期:土曜日 60.0(60.0)% 2学期:土曜・授業公開 55.0(55.0)%

ウ ホームページを適宜更新し、積極的に情報を発信することで広報活動の充実を図る。

→更新回数360(350)回

エ 中学生・保護者・地域の期待を引き続き獲得し、中進対(東京都中学校長会進路対策委員会)における本校への入学希望倍率(中進対倍率)1.25倍超を目指す。

→1.09倍(デザイン1.21 クラフト0.97 システム情報1.63 ビジネス情報0.74)

昨年度0.86倍(デザイン1.01 クラフト0.80 システム情報1.29 ビジネス情報0.51)